

(1)評価基準に沿った評価	0人	0人	3人	3人	0人	2.5
(2)記述評価						
・光化学オキシダントとTSLP, IL13,重症喘息,地域性などの因子の関係の基本的なところが不明確である。 ・光化学スモッグ、光化学オキシダントの社会的被害の実態調査も加味した研究になることが望まれる。光化学オキシダントの環境濃度と実際の症例におけるバイオマーカーの変動に関するデータの蓄積が必要である。 ・極めて成果に乏しい調査研究である。 ・環境と生体との関連にチャレンジしている。光化学オキシダントと喘息との関連について、大気中光化学オキシダントによりTSLPが発現していることが示唆されたという。そのうえで、血液中TSLPが高発現の患者群において、大気汚染物質情報などの啓発によりACTスコアの改善傾向が見られたという。この研究を継続するとすれば、さらなる計画と検討の見直しが必要であろう。 ・発表会におけるプレゼンテーションに難があった。研究代表者も不在であった。 ・光化学オキシダント高発現日の行動変容等の介入研究のデザインが明確でなく、また介入による改善の程度も小さいと考えられ、少数例の解析では介入による改善傾向があるとの判断はできないと考えられる。また、交絡要因等の影響についても解析が不十分である。						